

平成24年9月27日(木) 10時00分～11時30分 江別市民会館23号室

外部評価作業

- ・①01-03 水とみどりの保全と創出活用
- ・②02-02 工業の振興と産学官連携の推進
- ・出席委員
山下分科会長、齊藤委員長、小野寺委員、清水委員
- ・説明員
 - ① 金内課長(環境課)、小関主査(環境課)
 - ② 大川課長(企業立地課)、水谷主査(企業立地課)、君主査(商工労働課)
- ・事務局(政策調整課)
鈴木企画政策部長、米倉企画政策部次長、川島課長、稲田主査、竹下主任、馬場主事

会議録

外部評価作業

政策01 環境と調和する都市の構築

施策03 水とみどりの保全と創出活用

- ・10時00分～10時10分 金内施策マネージャー説明
- ・10時10分～10時50分 質疑応答・指摘・評価

～全体を通して確認したい点、疑問点～

【各委員】

特になし。

～評価項目についての指摘・提言～

▼施策01-01 水とみどりの保全と創出活用

【山下分科会長】

施策の達成状況で「野幌・大麻地区は野幌原始林に～相対的に低い傾向にあると考えられる」とあるが、これは根拠のある記載なのか。

【金内施策マネージャー】

市民が野幌原始林についてどのような感覚を持っているか、ということ的直接把握できるデータはないが、「みどりに親しめる空間がある」と思う市民割合は江別地区だけが低いという市民アンケートのデータを基に分析し、そのような記載となった。

【山下分科会長】

ということは、地区別にデータを分析することが可能ということか。

【金内施策マネージャー】

その通りである。

【山下分科会長】

そのようなデータに基づいて、江別地区が特に低かったということで記載しているのなら、その部分を補記していただきたい。

【金内施策マネージャー】

了解した。

【小野寺委員】

施策の環境変化の2つ目に「増高の傾向」との記載があるが、このような表現は一般的ではないのではないか。

また、施策の課題の2つ目に「地域の特徴を活かした環境保全活動」とあるが、「地域の特徴」とは具体的にどのようなことかわかりにくいのではないか。

【金内施策マネージャー】

「増高」という表現については指摘のように一般的ではないので、わかりやすい表現について検討したい。

「地域の特徴」についても、地域ごとの特徴的なことについて具体的な例示を加えた記載が可能だと思うので検討したい。実際に、ひまわりを道端に植えている団体も農村地区にあるので、そのような事例を補記するなど検討したい。

▼基本事業01「水とみどりの保全」

【山下分科会長】

基本事業の目的に「市民と事業者、行政が」という記載があるのにも関わらず、対象の中には「行政」が入っていないのはなぜか。同様に「基本事業02 水とみどりの創出活用」では基本事業の目的の書き出しで「市民・事業者が」となっているが、ここに行政が入らないのはなぜか。また、同じく対象の部分にも「行政」が入っていないのはなぜか。

【金内施策マネージャー】

「基本事業01 水とみどりの保全」で対象に「行政」が入っていない点については、敢えて「行政」を記載していないということはなく、市民・事業者の方に特に認識をしてもらいたいという思いもあってこのような記載になったのではないかと考えるが、指摘のように敢えて記載しない理由はないので、次期総合計画策定の際に記載を検討したい。

「基本事業02 水とみどりの創出活用」についても、市民植樹の企画を行政側がしているということもあるので、「行政」を敢えて記載しない理由がないため、次期総合計画策定の際に表記を検討したい。

【齊藤委員長】

達成状況で、「地域制緑地面積には変化がない」とあり、面積を守ることが目標であると成果指標から読み取れるのだが、このことに対して行政からはどのような手法で目標を実現しようとしているのか。

【金内施策マネージャー】

基本的には、地域制緑地に指定することで土地の利用を規制するということが挙げられる。

【山下分科会長】

その指定は、事業者の都合で地域制緑地の指定を解除することができないような強制的なものなのか。

【金内施策マネージャー】

そうである。

【齊藤委員長】

「今後も減少しないよう、市民植樹など啓発作業を通して」とあるが、これは地域制緑地が減少しないよう市民植樹を行えば維持されるものなのか。

【金内施策マネージャー】

地域制緑地に植樹をするということではない。地域制緑地は守ることが第一で、市民植樹は公共用地を利用して行っており、その際に地域制緑地の話をすることで啓発に努めているということである。

【齊藤委員長】

成果指標は「地域制緑地（緑地保全地区等）面積」だが、それ以外にも市民の目に付く緑を増やすことを目的にしているのだと思う。施策として、緑の面積を守る、或いは増やすということだとすると、主要事業一覧の「花のある街並みづくり事業」や「保存樹木等指定事業」に関する記載が成果指標もしくは達成状況の中に必要ではないか。

【金内施策マネージャー】

「花のある街並みづくり事業」については「基本事業02 水とみどりの創出活動」で触れていることもあり、基本事業01では触れなかった。ただし、「保存樹木等指定事業」については、達成状況の中で触れたほうが良いと思うので次回記載する際に表現の工夫をしたい。

【小関主査】

補足だが、市民植樹による啓発活動をすることが地域制緑地の保全に対する意識の高まりに繋がり、さらには事業者の意識の高まりにも繋がるということで、地域制緑地が減少しないように一定の役割を果たしている側面がある。

【山下分科会長】

市民にとってわかりやすくなるように、そのような内容を達成状況の中で表現してはどうか。

【金内施策マネージャー】

了解した。表現に注意して記載を検討する。

【小野寺委員】

緑地の保全というのは、必ずしも「現状維持＝保全」とはならないのではないかと。保全とは保護すること以外にも安全を保つこと、活用することをも含むのではないかと。そのような部分へ行政としてのアプローチが必要だと思う。

【金内施策マネージャー】

安全と活用という部分に関して、今後念頭に置いて取り組まなければならないと思う。

ただし現状として、長期的な活用や安全の確保について方針等が決められていないので、詳細な記載ができる段階にないというのが実態である。

【清水委員】

目的や意図の中で「水辺環境を守る」という記載があるが、成果指標や達成状況には「水辺環境」に関する記載がない。必要ではないか。

【金内施策マネージャー】

市民アンケートで「水辺環境」に関して分析できる設問がない点と、具体的に水辺をどのように活用しているかという状況を指標に表せるデータがない。どのようにすればその部分に関してデータ化が可能かということについては研究を重ねたい。

【清水委員】

了解した。

▼基本事業02「水とみどりの創出活用」

【小野寺委員】

意図で「緑を育てる。」と「緑を育み、緑豊かなまちづくり。」とあるが、同じことを指しているので分けて記載しなくてよいのではないか。

また、4月の広報えべつで「貸し農園制度」の取り組みが掲載されていたが、そのような取り組みもこの部分で評価すべきなのではないか。

【金内施策マネージャー】

意図の部分について、指摘の通りだと思うので表現の整理をしたい。

貸し農園制度については、農業担当部署と整理した上で達成状況や成果指標で記載できるかを整理したい。

【小野寺委員】

了解した。

【齊藤委員長】

成果指標に「花のある街並みづくり事業の参加団体数」とあり、概ね100団体程度あるが、これはどのようなものが含まれているのか。

【金内施策マネージャー】

参加団体としては自治会・高齢者クラブ・市内の小中学校が含まれている。

【齊藤委員長】

小中学校は全校が行っているのか。

【小関主査】

事業としての対象となっているのは、取り組みのモデルケースになるような活動の活発な所を抽出して支援をしているが、花壇づくり自体は全校で行っている。

【齊藤委員長】

自治会や高齢者クラブの参加率はどの程度なのか。

【小関主査】

自治会等でも高齢化が進み、次の担い手がないということもあり伸び悩んでいる。それに対しては、市民憲章推進協議会に市から補助金を出して宿根草の植栽実験を行う

ており、普及させていくことで担い手不足の自治会でも花を植えてもらえるようにしていきたいと考えている。

【齊藤委員長】

説明にあった内容を達成状況で記載してはどうか。

【小関主査】

了解した。

【山下分科会長】

達成状況で「緑化相談」とあるが、市民は何のことかわかるのか。

【金内施策マネージャー】

環境課に緑化相談員を配置しており、広報等で案内している。また、緑化相談員については十数年前より配置し活動を続けており、相談も多数いただいている現実があり、認知してもらえていると考えている。

【山下分科会長】

了解した。

～まとめ・評価～

【山下分科会長】

それでは評価のまとめに入りたい。

施策についての評価はどうか。指摘事項はあったものの、本筋としては問題がないように思うので「概ね適切」としてはどうか。

【委員】

(同意)

【山下分科会長】

基本事業01に関してはどうか。

こちらについてもいくつか指摘があったので「概ね適切」としてはどうか。

【委員】

(同意)

【山下分科会長】

基本事業02に関してはどうか。

こちらについてもいくつか指摘があったので「概ね適切」としてはどうか。

【委員】

(同意)

政策02 明日に繋がる産業の振興

施策02 工業の振興と産学官連携の推進

- ・ 11時00分～11時10分 渋谷施策マネージャー説明
- ・ 11時10分～11時40分 質疑応答・指摘・評価

～全体を通して確認したい点、疑問点～

【各委員】

特になし。

～評価項目についての指摘・提言～

▼施策02-02 工業の振興と産学官連携の推進

【山下分科会長】

意図に「江別市内に設立して事業運営をする。」とあるが、これに対応する成果指標がないように思うが必要ではないか。

【水谷主査】

「起業化された件数」ということに繋がると思うが、市として把握できるものはアンビシャスプラザの中のものだけであり、市内全体での起業化された件数は把握困難であるため記載していない。

【山下分科会長】

開業届が提出された件数を用いて把握できないのか。

【事務局(川島課長)】

企業を設立された場合には、届け出をするようお願いはしているが、これは義務ではなく、いつ届け出をするかはその企業次第になってしまう。そのため、年度毎での正確な企業設立件数を把握することは困難である。ただし、今後その部分をどのように表現していくかについては検討の余地があるかと思う。

【山下分科会長】

了解した。

それでは今後その部分を表現できるような具体策を検討いただきたい。

【大川施策マネージャー】

了解した。

【小野寺委員】

施策の課題の中で「顔づくり事業」とあるが、どのような事業を指しているのか。

また、基本事業02に「江別市の特性や優位性」と記載があるが、これがどのようなものであるかの記載がなければ市民としてはわかりづらい。この内容を施策の環境変化や課題の欄に記載してはどうか。

【大川施策マネージャー】

「顔づくり事業」とは、野幌の鉄道高架に関連する事業である。

特性・優位性については、環境変化の欄に大学がある強み、フード・コンプレックスに指定されたという2点の記載はあるが、加えて札幌の隣地であることによる強みが記載されていないので記載を検討する。

【山下分科会長】

環境変化で「フード・コンプレックス国際戦略総合特区に指定を受け」とあるが、この指定のメリットは何か。

また、課題で「民間との連携による工業団地内遊休地の活用」とあるが、遊休地はどれくらいあるのか。

【大川施策マネージャー】

フード・コンプレックスのメリットに関しては、規制緩和の部分と立地した企業に対する税制支援や金融支援が大きなものとして挙げられる。

また、遊休地に関する質問だが、市内には3つ工業団地があり、第1工業団地、第2工業団地、RTNパークである。現在、第1工業団地、第2工業団地については既に市の分譲地はなく民間が所有しており、その中には土地だけを持っていて建物をまだ建てていないものもある。RTNパークでは、現在5.1ha程度の遊休地があり、そのうち3.1haについて誘致を進めている企業があるため、残っているのは2ha程度であるが、不足してきたということで新たに2.6ha程度の造成に向けて準備を進めている所である。

【山下分科会長】

フード・コンプレックス国際戦略総合特区に指定されたことによるメリット、及び工業団地が3つ存在することや、遊休地がどの程度あるのか、ということの補記を検討していただきたい。

【大川施策マネージャー】

了解した。

【小野寺委員】

成果指標「製造品出荷額等」と「事業所従事者数」だけでは江別の産業がどのように変化しているかが見えないので、その部分の説明が達成状況欄にあった方がよいのではないか。

【山下分科会長】

出荷物ごとの記載とそれに伴う分析が必要ではないかということだがどうか。

【水谷主査】

統計書をもとに出荷物ごとの数値は把握しているが、すべてを記載するわけにはいかないので、主要なものや、ジャンルに分けての記載が達成状況で可能か検討したい。

【小野寺委員】

了解した。環境変化によって、新たに江別にどのような変化が起きているのかがわかるような記載をしていただきたい。

【大川施策マネージャー】

了解した。達成状況の中で、新規立地企業の業態などを具体的に記載するなど工夫することで対応できないか検討する。

【齊藤委員長】

施策の課題で6点挙げられているが、これは今期の課題というよりも後期計画の期間中における課題ということでのよい。

【大川施策マネージャー】

その通りである。

【齊藤委員長】

だとすると、主要事業一覧にある事業それぞれがこの課題1つ1つにリンクしているのだと思うので、達成状況のところでもそのような事業に関する内容も記載した方がよいのではないかと。今のままでは、成果指標の説明に過ぎない印象を受ける。

【大川施策マネージャー】

市民にとってよりわかりやすい表現を検討したい。

【山下分科会長】

達成状況で「22年度データを見ると、製造品出荷額等及び事業所従事者数は前年度を下回っている」とあるが、原因分析が抜けているのでその部分の補記を検討していただきたい。

【大川施策マネージャー】

江別市の企業は下請け企業の数が多いため、平成20年度のリーマンショックの影響が出ているのではないかと考えている。精査して補記を検討したい。

▼基本事業01「産学官連携による技術協力ネットワークの推進」

【清水委員】

成果指標によると「江別経済ネットワーク等から派生したプロジェクトの数」が増加していない原因を達成状況で記載する必要があるのではないかと。

【君主査】

了解した。成果指標に関する補記を検討したい。

【齊藤委員長】

達成状況で「平成23年度は岩手大学と地元企業との技術連携を支援し」とあるが、この数は成果指標の方でカウントされているか。

【君主査】

カウントされている。

【山下分科会長】

1件としてのカウントか。

【君主査】

1件としてカウントしている。

【山下分科会長】

なぜこの具体例だけを達成状況欄で記載しているのか。

【君主査】

大学との連携ということで特記した部分と、様々な企業が様々な商品を開発しているが、企業名を出した例示が難しいという部分もあり大学名を出せる例示の記載に留めて

いる。複数の例示があった方がよいということであれば表現を検討したい。

【山下分科会長】

了解した。そうであれば検討していただきたい。

▼基本事業02「新規企業の立地促進」

【山下分科会長】

成果指標「新規立地企業数(工業団地等)」と「ベンチャー新規企業数」とは、重複してカウントしているものはないのか。

【大川施策マネージャー】

重複してカウントしているものはない。

【山下分科会長】

了解した。

【齊藤委員長】

達成状況の中でRTNパークやアンビシャスプラザへの新規立地件数や入居件数に関する記載があるが、これは先ほど評価した施策の部分でもすでに記載がされており、重複している。重複させず、より詳細な記載や他の説明をしてはどうか。

【水谷主査】

施策の達成状況の欄で基本事業の内容まで踏み込んだ記載となってしまっている部分がある。基本事業の方に指摘部分の記載を残し、施策の方では先ほどの「課題に対応した記載を」という指摘もあったので、その点と併せて表現を整理したい。

【齊藤委員長】

了解した。

【清水委員】

意図に「ベンチャー企業が集積する」とあるが、敢えてここでベンチャー企業に特化して記載しているのはなぜか。

【大川施策マネージャー】

アンビシャスプラザという支援機関が地元の商店街と連携している場所があり、そこを江別市としてベンチャー企業集積のために指定していることが挙げられる。

【清水委員】

それは、ベンチャー企業が同じ場所にまとまっていたほうが良いということか。

【大川施策マネージャー】

低家賃であることや、市が共有スペースに補助金を出している面、また企業同士の連携や、大学との連携などの情報がいち早く手に入る場所となっている。

【清水委員】

了解した。

【山下分科会長】

成果指標に「企業立地による新規雇用者数」とあるが、この人数はすべて江別市民なのか。

【水谷主査】

市外の従業員数も含まれている。企業側が市内従業員と市外従業員をデータとして押さえていない部分もあり、全体の雇用者数としての記載となっている。

【山下分科会長】

どの程度が江別市民なのか。

【水谷主査】

概ね半分が市内の従業員であると捉えている。

【山下分科会長】

それを担保するデータ等があるのであれば、その旨の記載があった方が良い。

【水谷主査】

補記を検討する。

～まとめ・評価～

【山下分科会長】

それでは評価のまとめに入りたい。

施策についての評価はどうか。

いくつか指摘があったので「概ね適切」としてはどうか。

【委員】

(同意)

【山下分科会長】

基本事業01に関してはどうか。

こちらについてもいくつか指摘があったので「概ね適切」としてはどうか。

【委員】

(同意)

【山下分科会長】

基本事業02に関してはどうか。

こちらにもいくつか指摘があったので「概ね適切」としてはどうか。

【委員】

(同意)

【山下分科会長】

以上で、施策02-02「工業の振興と産学官連携の推進」についての外部評価作業を終了する。

11:50終了。